

平成30年度インテリアプランナー試験 学 科 試 験

試 験 地	受 験 番 号	氏 名

問 題 集

次の注意事項及び答案用紙の注意事項をよく読んでから始めて下さい。

〔注意事項〕

1. この問題集は、表紙を含めて**10枚**になっています。
2. この問題集は、計算等に使用しても差しつかえありません。
3. 問題は、全て**四肢択一式**です。
4. **解答は、各問題とも一つだけ答案用紙の解答欄に所定の要領ではっきりとマークして下さい。**
5. **解答に当たり、適用すべき法令については、平成30年1月1日現在において施行されているもの**とします。
6. 解答に当たり、地方公共団体の条例については、**考慮しないこと**にします。
7. この問題集については、**試験終了まで試験室に在室した者に限り、持ち帰りを認めます**
(中途退出者については、持ち帰りを禁止します)。

〔No. 1〕 近代の芸術運動とそれに関係する人物名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. ドイツ工作連盟(DWB) ———— ペーター・ベーレンス
(Peter Behrens)
2. ゼツェション(分離派) ———— ヨーゼフ・ホフマン
(Josef Hoffmann)
3. デ・ステイル ————— ヘリット・トーマス・リートフェルト
(Gerrit Thomas Rietveld)
4. イタリア未来派 ————— ヴァルター・グロピウス
(Walter Gropius)

〔No. 2〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

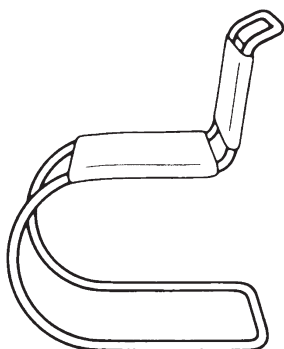
1. PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)は、設計された環境を占居する利用者にとっての有効性の検証であり、建物入居後評価や居住後評価とも言われる。
2. フリーアドレスは、執務席を固定化せず、在籍者で共有し、効率的に利用する使い方のオフィスの運用方式である。
3. FM(ファシリティマネジメント)は、施設及びその環境を経営的視点から総合的に企画・管理・活用するための経営管理活動である。
4. パッシブデザインは、建築物自体のデザインにより、建築物内外に生じる熱や空気や光等を制御して、暖房・冷房効果、照明効果等を積極的に得ることを意図した設計手法である。

〔No. 3〕 建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

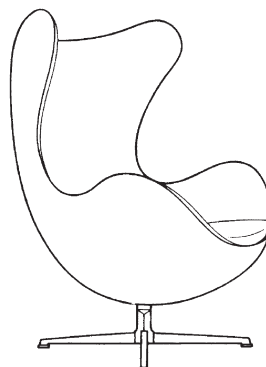
1. ケアハウスは、常時介護が必要で、家庭での生活が困難な高齢者のための施設である。
2. 認知症高齢者グループホームは、要介護状態にある認知症高齢者が、介護などの知識をもった専門家と共に生活する施設である。
3. コーポラティブハウスは、同一敷地内に居住することを希望する者が組合をつくり、住宅の設計から管理までを運営する集合住宅である。
4. シェアハウスは、数人がそれぞれ個室をもち、トイレ・浴室・キッチンなどを共用する住宅である。

[No. 4] 図に示す椅子と作家名との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

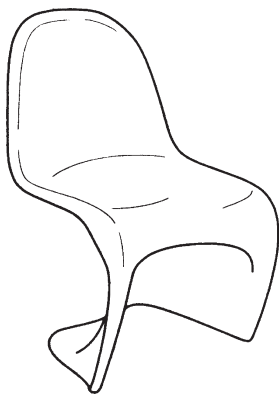
1. ビコ・マジストレッティ
(Vico Magistretti)



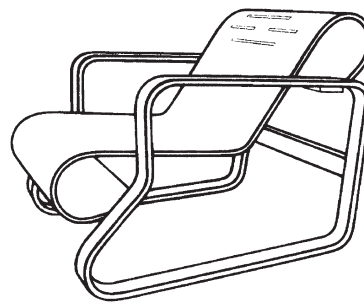
2. アルネ・ヤコブセン
(Arne Jacobsen)



3. ヴェルナー・パントン
(Verner Panton)



4. アルバー・アアルト
(Alvar Aalto)



(注)No.4の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
図の出典：「インテリア学辞典」(壁装材料協会発行、1995年)

〔N o. 5〕 次の人間工学又は日常災害に関する用語と設計に関する事項との組合せのうち、最も関係の少ないものはどれか。

1. 墜落 ————— バルコニーの手すりの棧と棧との間隔
2. 転倒 ————— 床の仕上げ
3. パーソナルスペース —— 会議室の座席配置
4. アフォーダンス ————— 冷暖房の室温設定

〔N o. 6〕 インテリアの寸法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 車椅子使用者同士が支障なくすれ違える廊下の有効幅を、1,800mmとした。
2. 高齢者が居住する住宅において、玄関の出入口の沓摺くつずりと玄関外側との床の高低差を、20mmとした。
3. 車椅子使用者が使用するエレベーターの出入口の有効幅を、900mmとした。
4. 老人ホームにおいて、入居者が利用する階段の蹴上げを170mm、踏面を260mmとした。

〔N o. 7〕 音環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の室間音圧レベル差の遮音等級におけるDr-60は、Dr-50に比べて遮音性能が高い。
2. 点音源からの距離が2倍になると、直接音による音圧レベルは6 dB減衰する。
3. 平均吸音率が等しい場合、室の残響時間は、室容積に反比例し、室内表面積に比例する。
4. 同じ厚さの一重壁の音響透過損失は、一般に、壁体の単位面積当たりの質量が大きいほど大きい。

〔N o. 8〕 室内の温熱環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 温熱環境の六要素は、「空気温度」、「相対湿度」、「気流速度」、「放射温度」、「代謝量」及び「着衣量」である。
2. 椅子に座り安静にしている日本人の平均的な成人男性の代謝量は、1人当たり100W程度である。
3. 作用温度とは、空気温度と湿度から求められる感覚温度である。
4. 予測平均温冷感申告(PMV)とは、快適方程式に基づき環境温度を温冷感尺度で評価した値である。

〔N o. 9〕 空気環境に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 通風を効果的に利用するには、風の入ってくる開口部と、風の出ていく開口部があることや、それらの窓の位置関係に配慮することが望ましい。
2. 居室において、二酸化炭素の濃度を基準として必要換気量を計算する場合、一般に、二酸化炭素の許容濃度は0.1% (1,000ppm)である。
3. 換気回数0.5回/hが求められる室においては、2時間で少なくともその室の容積と同じ量の外気が供給される必要がある。
4. 温度差換気において、外気温度が室内温度よりも低い場合、中性帯よりも上方から外気が流入する。

〔N o. 10〕 環境・省エネルギーに関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. C A S B E Eは、新築及び既存の建築物において第三者評価機関が省エネルギー性能を評価し、認証する制度である。
2. L E E Dは、米国で開発された、建築物と敷地利用についての環境性能評価システムである。
3. H E M Sは、エネルギー消費量を可視化しつつ、住宅設備機器や家電機器等の制御を行うことで省エネルギーやピークカットの効果を目指すシステムである。
4. Z E Hは、室内環境の質を維持しつつ省エネルギーを行ったうえで、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅である。

〔N o. 11〕 空気調和設備に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 放射空調方式は、天井や床等のパネルに埋設した管に冷水・温水を通し、そのパネルを冷却・加熱することで、人とパネルとの間で放射熱交換を行う空調方式である。
2. 空冷式のマルチパッケージ型空調機は、1台の屋外機に対して複数台の屋内機が冷媒管で結ばれたものである。
3. 定風量単一ダクト方式は、一般に、変風量単一ダクト方式と比べて、室内の気流分布、空気清浄度を一様に維持することが難しい。
4. ターミナルリヒート方式は、末端ごとに再熱器を設ける方式であり、末端ごとの温度調節が可能である。

[No. 12] 電気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

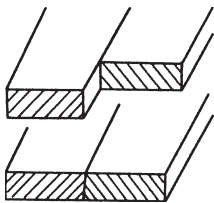
1. 需要家に供給される電力の受電電圧の区分は、低圧と高圧の二種類である。
2. 燃料電池は、燃料のもつ化学エネルギーを直接電気エネルギーに変換する発電装置である。
3. 需要率は、設備容量に対する最大需要電力の比率を示す数値である。
4. 単相交流回路の有効電力は、電圧の実効値、電流の実効値及び力率の積により求められる。

[No. 13] 壁面におけるせっこうボードの施工方法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

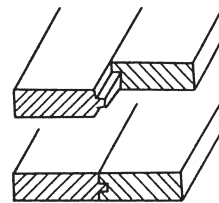
1. 木造下地に、直にせっこうボードを接着剤とステープルを併用して取り付けした。
2. コンクリート下地に、せっこう系接着剤をだんご状に塗り付け、せっこうボードを直張りした。
3. 壁面の一体性を確保するために、ドライウォール工法とした。
4. 鋼製下地に、直にせっこうボードをドリリングタッピンねじを用いて取り付けした。

[No. 14] 板のはぎ合わせ方を示す図とその名称との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

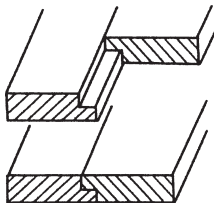
1. いもはぎ



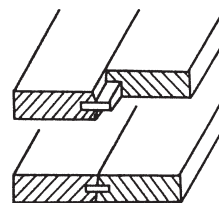
2. やはずはぎ



3. 相じゃくりはぎ



4. 雇いざねはぎ

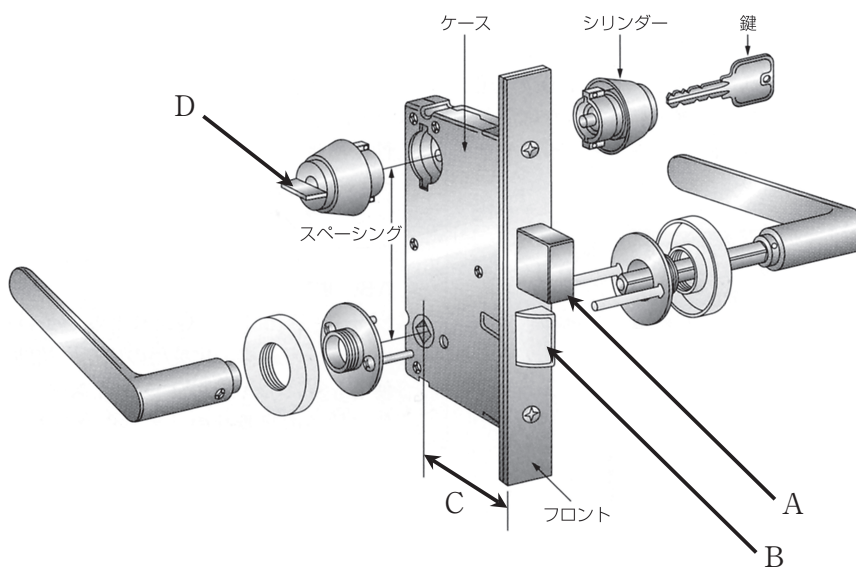


(注)No.14の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
図の出典：「インテリア大事典」（壁装材料協会発行、1988年）

[No. 15] 木造住宅における壁、床等の取合い部分と、その部分に用いられる部材との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 真壁と床の間の地板 —— ぞうきんずり
2. 壁と天井 ————— 回り縁
3. 壁と窓下枠の板材 —— 膳板
4. 壁と床 ————— 笠木

[No. 16] 図に示すシリンダー錠の各部A～Dとその名称イ～ニとの組合せとして、最も適当なものは、次のうちどれか。



- イ. ラッチボルト
- ロ. サムターン
- ハ. バックセット
- ニ. デッドボルト

	A	B	C	D
1.	ニ	イ	ロ	ハ
2.	イ	ニ	ロ	ハ
3.	イ	ニ	ハ	ロ
4.	ニ	イ	ハ	ロ

〔N o. 17〕 塗壁に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 繊維壁は、耐水性に優れている。
2. 珪藻土けいそうを素材とした塗壁は、調湿性、吸音性に優れている。
3. 漆喰しっくい塗壁は、耐久性に優れている。
4. せっこうプラスター塗壁は、耐熱性に優れている。

〔N o. 18〕 カーテン・ブラインドに関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

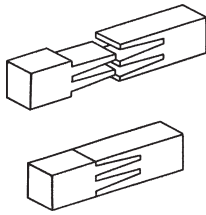
1. ベネシャンブラインドは、障子に比べて断熱性に優れている。
2. カーテンレールをダブルで取り付ける場合、カーテンボックスの奥行きは、180mm以上とする。
3. カーテンは、厚手のドレープで、たつぷりとプリーツ(ひだ)をとったものを使用すると、吸音性を高める効果がある。
4. バーチカルブラインドは、水平なレールに多数の細長いルーバーを下げて、ルーバーの角度調整や、開閉をできるようにしたものである。

〔N o. 19〕 畳に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

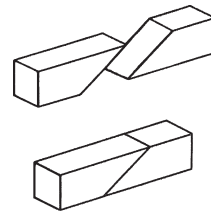
1. 京間(本間)の畳寸法は、長さ6尺3寸(191cm)、幅3尺1寸5分(95.5cm)である。
2. 畳は、畳寄せより高くなるように敷く。
3. 畳表たたみおもては、畳の表層に張る敷物で、乾燥したいぐさ等をよこ糸にし、麻糸や綿糸などをたて糸にして織り上げたものである。
4. 畳縁たたみべりは、畳表たたみおもての長手の縁を、畳に固定する目的で付けられる布製の縁である。

[No. 20] 家具等に用いられる木材の接合方法の名称と図との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

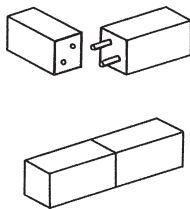
1. フィンガージョイント



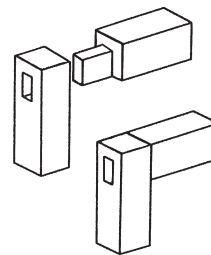
2. 相欠き継ぎ



3. 太柄継ぎ^{だぼ}



4. 平柄継ぎ^{ひらぼ}



(注)No.20の図については、著作権法上の関係から、その出所等を明示しています。
図の出典：「インテリア大事典」(壁装材料協会発行、1988年)

[No. 21] ガス機器に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 半密閉式ガス機器は、燃焼用空気を屋内から採り、燃焼ガスを屋外に排出する方式の機器である。
2. 密閉式ガス機器は、燃焼用空気を屋外から採り、燃焼ガスを屋外に排出する方式の機器である。
3. 屋内に設置したガスコンロは、開放式ガス機器である。
4. 先止め式ガス瞬間湯沸器は、機器の入口側(給水側)の水栓の操作で給湯する方式の機器である。

〔N o. 22〕 サインに関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 触知案内図の設置に際しては、視覚障害者誘導用ブロックを用い、さらに音声案内を付加して誘導することが望ましい。
2. 視覚障害者誘導用ブロックとして用いられる線状ブロックは、注意喚起や警告の目的で用いるものである。
3. 注意を示すサインは黄色、禁止を示すサインは赤色が主に表示色として使用される。
4. サインの表示色として、黄色と青色の組合せは、非常に識別性の高い色の組合せである。

〔N o. 23〕 建築物の内装又は内装材に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 内装材の表面にリブや溝のあるものは、表面が平坦なものに比べて、火炎が急激に伝播する場合がある。
2. 壁が木材で仕上げられていても、天井に不燃性の材料を用いれば、急激な燃焼拡大の危険性は少なくなる。
3. 内装の不燃化は、床よりも壁について行うほうが、急激な燃焼拡大の防止に有効である。
4. 木材で造られた壁に着火して、炭化層が形成される場合には、燃焼発熱が加速される。

〔N o. 24〕 建築物の火災安全計画に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 避難階段における階段室への出入口の有効幅を、階段の有効幅よりも狭くした。
2. 天井面の高さが20mを超える部分の自動火災報知設備の感知器を、煙感知器とした。
3. 廊下における機械排煙の排煙口を、避難階段の出入口から離して設置した。
4. 高層建築物の避難計画において、出火階、次いでその直上階、そして最上階というように危険が及びやすい階から順次避難させることとした。

〔N o. 25〕 建築物の工事現場から排出される次の廃棄物のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく**特別管理産業廃棄物に該当する**ものはどれか。

1. 共同住宅の新築工事に伴って生じた木くず
2. 石綿建材撤去事業に伴って生じた飛散のおそれのある石綿
3. 一戸建て住宅の解体工事に伴って生じたガラスくず
4. 共同住宅の基礎工事に伴って生じた汚泥

〔N o. 26〕 左官工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート面にモルタル塗りをを行うに当たり、希釈した吸水調整材をあらかじめコンクリート面に直接塗布した。
2. コンクリート面にモルタル塗りをを行うに当たり、下塗りは、上塗りに比べて富調合とした。
3. せっこうプラスター塗りをを行うに当たり、下地モルタルが乾燥しないうちに、せっこうプラスターを塗り付けた。
4. コンクリート床面にセルフレベリング材塗りをを行うに当たり、作業中及び施工後硬化するまで、通風を遮断した。





〔N o. 27〕 建具・ガラス工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 外装アルミサッシに使用するガラスについて、夏期の日射熱を遮蔽し冷房負荷を軽減するため、強化ガラスとした。
2. 高層階のバルコニーにおいて、手すりの面材に使用するガラスを合わせガラスとした。
3. 木製建具において、フラッシュ戸の表面板に板厚4mmの天然木化粧合板を使用した。
4. 出入口に鋼製建具を取り付けるに当たり、あらかじめ沓摺^{くつずり}の裏面にモルタルを充填した。

〔N o. 28〕 軽量鉄骨下地の施工に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、天井は特定天井及びシステム天井ではないものとする。

1. 高さ4.2mの間仕切壁の軽量鉄骨壁下地において、90形スタッドを用いた。
2. 軽量鉄骨壁下地において、スタッドの振止めは、床ランナーの下端から間隔約1,500mmごとに取り付けた。
3. 間仕切壁の軽量鉄骨壁下地において、鋼製天井下地への取付けだったので、上部ランナーを鋼製天井下地に間隔900mmで溶接し、固定した。
4. 水平な軽量鉄骨天井下地において、天井のふところ^{ふところ}が1,800mmであったので、補強用部材を用いて、吊りボルトの水平補強、斜め補強を行った。

〔N o. 29〕 日本工業規格(J I S)における電気設備の配線用図記号とその名称との組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1.  —— 分電盤
2.  —— スピーカー
3.  —— 換気扇
4.  —— 壁付電話用アウトレット

〔N o. 30〕 各種工事とそれに用いる施工機器・工具との組合せとして、**最も不適當なもの**は、次のうちどれか。

1. 木工事 —— ちょうな
2. 石工事 —— びしゃん
3. 金属工事 —— ニーキッカー
4. タイル工事 —— ヴィブラート

〔N o. 31〕 請負契約に関する次の記述のうち、民間(旧四会)連合協定「工事請負契約約款」(平成29年12月改正)に照らして、**最も不適當なもの**はどれか。

1. 検査又は試験に合格しなかった工事材料又は建築設備の機器は、受注者の責任においてこれを引き取る。
2. 不用となった支給材料(残材を含む。いずれも有償支給材料を除く。)又は使用済みの貸与品の返還場所は、設計図書等に別段の定めのないときは工事現場とする。
3. 現場代理人、主任技術者(又は監理技術者)及び専門技術者は、これを兼ねることはできない。
4. 受注者は、この契約の履行報告につき、設計図書等に定めがあるときは、その定めに従い発注者に報告しなければならない。

〔N o. 32〕 せっこうボードの種類とその特徴に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. シージングせっこうボードは、普通せっこうボードに比べて、吸水時の強度低下が大きい。
2. 強化せっこうボードは、心材のせっこうに無機質繊維等を混入したもので、防火性が高い。
3. せっこうラスボードは、へこみをつけた型押しボードである。
4. 構造用せっこうボードは、耐力壁用の面材として使用される。

〔N o. 33〕 ステンレス鋼板の表面仕上げの名称とその説明との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. ダル ————— つや消しロールで圧延あるいはショットブラストして、表面に細かい凹凸を付けてつや消しにしたもの
2. バイブレーション ——— 多軸水平研磨により、無方向性のヘアラインに仕上げたもの
3. 鏡面 ————— 順々に細かい粒度の研磨材で研磨した後、研磨目のなくなるまでバフにより仕上げたもの
4. エッチング ————— 機械的に模様を彫り込んだエンボス用のロールで圧延して、凹凸の浮出し模様を付けたもの

〔N o. 34〕 床材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. エポキシ樹脂系塗床材は、耐薬品性に優れるが、耐候性に劣る。
2. コンポジションビニル床タイルは、温度変化や湿気による伸縮は少ないが、耐薬品性に劣る。
3. 弾性ウレタン樹脂系塗床材は、弾力性があり、耐衝撃性に優れている。
4. ビニル床シートは、耐水性に優れ、熱に強い。

〔N o. 35〕 用語に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 障害者支援施設の用途に供する建築物は、「特殊建築物」である。
2. 建築物の自重等を支える基礎ぐいは、「主要構造部」である。
3. 耐火建築物以外の建築物で、主要構造部を準耐火構造とし、外壁の開口部で延焼のおそれのある部分に所定の防火設備を有するものは、「準耐火建築物」である。
4. 用途上不可分の関係にある2以上の建築物のある一団の土地は、「敷地」である。

[No. 36] 内装の制限に関する次の記述のうち、建築基準法に適合しないものはどれか。ただし、いずれの場合も自動式スプリンクラー設備等は設けていないものとし、居室については「制限を受ける窓その他の開口部を有しない居室」には該当せず、また、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 耐火建築物である平家建て、延べ面積3,500m²の美術館において、展示室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
2. 準耐火建築物である地上2階建て、延べ面積800m²の物品販売業を営む店舗(当該用途に供する2階の部分の床面積の合計が400m²)において、その用途を変更し、火を使用する調理室を設けた飲食店とする場合に、その調理室の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。
3. 耐火建築物である地上2階建て、延べ面積600m²のホテル(当該用途に供する2階の部分の床面積の合計が300m²)において、当該用途に供する居室から地上に通ずる主たる廊下、階段その他の通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料とした。
4. 木造、地上2階建て、延べ面積90m²の住宅の一部が自動車車庫(当該用途に供する部分の床面積の合計が15m²)である場合、自動車車庫の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料とした。

[No. 37] 防火区画等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、自動式のスプリンクラー設備等は設けていないものとし、また、耐火性能検証法、防火区画検証法、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 主要構造部を準耐火構造とした3階建て、延べ面積170m²の一戸建ての住宅は、各階に通ずる吹抜きとなっている部分とその他の部分とを防火区画しなくてもよい。
2. 1階の一部を診療所(患者の収容施設があるもの)、その他の部分を事務所の用途に供する2階建ての建築物においては、診療所の部分とその他の部分とを防火区画しなければならない。
3. 階段部分とその他の部分とを防火区画しなければならない場合、その区画に用いる防火設備は、避難上及び防火上支障のない遮煙性能を有するものでなければならない。
4. 長屋の各戸の界壁は、準耐火構造とし、小屋裏又は天井裏に達せしめなければならない。

〔N o. 38〕 避難施設等に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 高等学校における生徒用の廊下で、両側に教室があるものの幅は、2.3m以上としなければならない。
2. 主要構造部を準耐火構造とした地上5階建ての事務所の用途に供する建築物(避難階は1階)で、5階における居室の床面積の合計が150m²の場合、その階から避難階又は地上に通ずる2以上の直通階段を設けなければならない。
3. 屋外に設ける避難階段は、耐火構造とし、地上まで直通させなければならない。
4. 非常用の照明装置を設ける必要がある場合、原則として、その照明は直接照明とし、床面において1 lx以上の照度を確保することができるものとしなければならない。

〔N o. 39〕 建築物の一般構造に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。

1. 映画館の客席には、換気設備を設けなければならない。
2. 有料老人ホームの事務室には、採光のための窓その他の開口部を設けなくてもよい。
3. 小学校の教室の天井の高さは、3 m以上でなければならない。
4. 共同住宅における高さ1 mを超える階段の部分には、手すりを設けなければならない。

〔N o. 40〕 建築設備に関する次の記述のうち、建築基準法上、誤っているものはどれか。ただし、居室については「窓その他の開口部を有しない居室」には該当せず、また、避難上の安全の検証及び国土交通大臣の認定は考慮しないものとする。

1. 事務所の用途に供する建築物において、発熱量の合計が6 kwのこんろ(密閉式燃焼器具等でないもの)を設けた調理室には、換気上有効な開口部を設けた場合であっても、換気設備を設けなければならない。
2. 主要構造部を準耐火構造とした地上2階建て、延べ面積400m²の飲食店には、排煙設備を設けなければならない。
3. エスカレーターの勾配は、原則として、30度以下としなければならない。
4. 主要構造部を耐火構造とした地上4階建て、延べ面積2,000m²の百貨店(避難階は1階)の3階の売場には、非常用の照明装置を設けなければならない。

〔N o. 41〕 防災に関する次の記述のうち、消防法上、誤っているものはどれか。ただし、いずれの建築物も高層建築物に該当しないものとする。

1. 地上7階建てのホテルの宴会場で使用する毛せんは、防災物品でなければならない。
2. 平屋建ての物品販売業を営む店舗の従業員控室で使用するカーテンは、防災物品でなければならない。
3. 地下3階、地上4階建ての図書館の地階で使用するじゅうたんは、防災物品でなければならない。
4. 地上7階建ての事務所の従業員専用食堂で使用する布製のブラインドは、防災物品でなくてもよい。

〔N o. 42〕 次の防火対象物の用途変更のうち、消防法上、原則として、従前の消防用設備等(消火器、避難器具その他消防法施行令で定めるものを除く。)で足りるものはどれか。

1. 寄宿舍から旅館に変更
2. 幼稚園から保育所に変更
3. 小学校から老人デイサービスセンターに変更
4. 倉庫から美術館に変更

〔N o. 43〕 次の防火対象物のうち、消防法上、原則として、その規模にかかわらず自動火災報知設備の設置が義務付けられる用途に該当しないものはどれか。ただし、いずれも危険物の貯蔵及び取扱いは行わず、単独の用途に供されるものとし、避難階以外の階から避難階又は地上に直通する2以上の階段が設けられているものとする。

1. 劇場
2. カラオケボックス
3. ホテル
4. 病院

〔N o. 44〕 次の記述のうち、関係法令上、誤っているものはどれか。

1. 「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」では、特定建設資材とは、「コンクリート」、「コンクリート及び鉄から成る建設資材」、「木材」及び「ガラス」である。
2. 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」では、建築物の耐震改修をしようとする者は、建築物の耐震改修の計画を作成し、所管行政庁の認定を申請することができる。
3. 「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」では、分譲事業者は、譲受人を決定するまでに相当の期間を要すると見込まれる場合において、当該譲受人の決定に先立って当該住宅の建築に関する工事に着手する必要があるときは、単独で長期優良住宅建築等計画を作成し、所管行政庁の認定を申請することができる。
4. 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」では、建築主等は、特定建築物(特別特定建築物を除く。)の建築物特定施設の模様替をしようとするときは、当該建築物特定施設を建築物移動等円滑化基準に適合させるために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

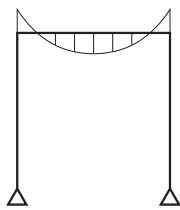
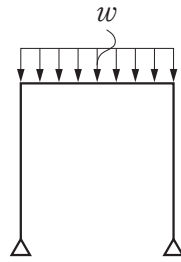
〔N o. 45〕 事務所ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 高層の事務所ビルにおける乗用エレベーターについては、一般に、最も利用者が多い時間帯の5分間に利用する人数を考慮して計画する。
2. 床面積が同じ事務室における机の配置形式については、一般に、並行(同向)式より対向式のほうが多くの机を配置することができる。
3. レンタブル比は、貸事務所ビルの収益性に関する指標の一つであり、収益部分の床面積に対する非収益部分の床面積の割合である。
4. コアプランにおける分離コア型は、構造計画及び設備計画上の対応が必要であるが、自由な執務空間を確保しやすい。

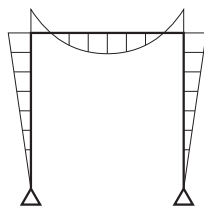
〔N o. 46〕 劇場の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 舞台において、下手とは、客席側からみて左側をいう。
2. プロセニウムアーチとは、舞台と客席との間に設けられる額縁状のものをいう。
3. 左右対称に配置された客席では、その中心線上に客席内の縦通路を配置することが望ましい。
4. 上演中の客席部分の照度の推奨値は、3 lxである。

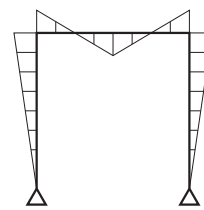
[No. 47] 図のような荷重を受けるラーメンの曲げモーメント図として、正しいものは、次のうちどれか。ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



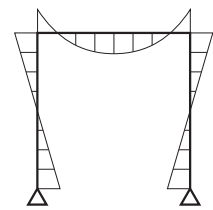
1.



2.



3.



4.

[No. 48] 建築物の構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 上下階の耐力壁は、平面的に一致するように計画することが望ましい。
2. 水平力に対する剛性は、一般に、建築物の高さが同じであれば、鉄骨造の建築物より鉄筋コンクリート造の建築物のほうが大きい。
3. 建築物の固有周期は、構造物としての剛性が大きいほど、質量が小さいほど、長くなる傾向がある。
4. 二つの部分がエキスパンションジョイントのみで接している建築物については、二つの部分はそれぞれ別の建築物とみなして構造計算を行うことができる。

〔No. 49〕 木造住宅における木工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 外気に接する1階の床の断熱材の施工に当たって、有害なたるみ、ずれが生じないように、受材を設けた。
2. 和室の畳床において、根太の間隔を455mmとした。
3. せっこうボード張り用の壁胴縁の取付間隔を、303mmとした。
4. 仕上げ材の縁甲板張りの継手の位置は、受材の心で通りよくそろえた。

〔No. 50〕 木造軸組工法における部材の接合箇所とその箇所に使用する接合金物との組合せとして、最も不適当なものは、次のうちどれか。

1. 垂木と軒桁 ————— かね折り金物
2. 柱と筋かいと土台 —— 筋かいプレート
3. 柱と基礎(土台) —— 引き寄せ金物(ホールダウン金物)
4. 小屋梁と軒桁 ————— 羽子板ボルト

